

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立西唐津中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒も職員も安心安全に生活できる学校づくりを目指して、学力向上の取組や生徒指導にあたることができた。</li> <li>校内研究や職員個人のマイプランに基づき、授業改善を進めているが、十分な成果が現れていない。今後もICTの利活用等を含めた指導法の研究が必要である。</li> <li>いじめ防止の取組やキャリア教育等について、講師招聘などを行い、最新の指導方法や知識を習得していく必要がある。</li> <li>ICT利活用により、業務の効率化や情報の共有化が進展した。今後も学校組織のスリム化を進める。</li> </ul>
2 学校教育目標	自他の「いのち」を尊び、自分の力で未来を切り拓く生徒の育成
3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>生徒も職員も安心安全に生活できる学校づくり</li> <li>教職員の人材育成(未来を担う若手教職員の指導力向上)</li> <li>学校組織のスリム化</li> </ol>

4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価		主な担当者
(1) 共通評価項目						
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	最終評価 実施結果	
●学力の向上	○基礎学力の向上のための授業づくりの実践 ○補充学習と放課後レベルアップ学習会の実施	○定期テストで基礎的な内容の正答率が80%に達した生徒の割合が70%以上。 ○「意欲をもって補充学習に取組むことができた」生徒の割合が70%以上。	・校内研修を通して、指導方法や評価の在り方について研究実践を行う。 ・電子黒板やタブレット端末などのICTを積極的に活用した授業改善に取組む。	B	「授業内容を理解している」と回答した生徒は65%だったが、成果指標を達成できたと回答した教師は60%だった。今後も学力向上に向けた取組を推進する。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした生徒80%以上。	・TTIによる道徳授業を組むことで、生徒のささやきをひろい、思考を深める。 ・学校行事や地域行事等への積極的な参加を促す。	B	「道徳の時間は楽しい」と答えた生徒は80.4%、「道徳が生活に役に立つ」と回答した3年生は90%だった。今後も学年間や家庭と連携した道徳授業を工夫・改善したい。	(主)道徳教育推進教師 (副)各学年主任
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員90%以上。	・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒75%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒75%以上	・「先生は自分のことを認めてくれる」と肯定的に答えた生徒の割合が81.0%であり、昨年度よりも4ポイントも上回り、職員が生徒に寄り添い指導していることが分かる。ただ、夢や進路が決まっている生徒は58.2%であり、引き続き、具体的な進路指導が必要である。	B	「先生は自分のことを認めてくれる」と肯定的に答えた生徒が78%、「学校はいじめについて組織として対応することができている」と回答した教師は100%だった。引き続き、組織的な取組を推進したい。
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○「健康に食事は大切である」と考える生徒85%以上。 ○朝食を食べる割合90%以上。	・体験活動等を活用して食への関心を高める。 ・各学級1回は学活の時間に食育指導を行う。	A	・朝食を食べている生徒が「だいたいあてはまる」を含めると90%であり、中間評価を上回った。家庭科や生徒会活動、給食を主とした食育などが成果を出していると考ええる。	保健主事 学校栄養職員 養護教諭 家庭担当教諭
	○教育相談の推進	○「学校生活が楽しい」と回答した生徒の割合が70%以上。	・気になる生徒の把握をする会議を定期的に行う。また、SCやSSWの活用などを含め小中合同の教育相談部会を定期的に行う。	A	「学校が楽しい」と肯定的に答えた生徒が87.2%で中間評価とほぼ同じであった。今後も支持的風土のある学級、学校経営を行っていく。	教育相談担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・定時退勤日の設定。 ・部活動ガイドラインに則った部活動休養日の設定と確実な実施。 ・会議のペーパーレス化など会議や事務の効率化を図る。 ・閉庁日に会議や研修を実施しない。	A	「学校は、職員の働き方改革に積極的に取組んでいる」と回答した職員は92%でほぼ同じだった。 ・今後も、行事の持ち方や平日の部活動時間の見直しを今後も検討していきたい。	管理職
	○ICT活用による連絡等の効率化	○「はなまる連絡帳」アプリ版の活用によって効率化が進んだと回答する保護者・教職員の割合が80%以上。	・通信類のペーパーレス化やデジタルによる双方向化を推進する。	A	「はなまる連絡帳アプリ版の活用によって効率化が進んだと思う」に肯定的な回答は、9割を超えていた。来年度もデジタル化と業務の効率化を推進する。	管理職
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員70%以上。	・特別支援教育に関する研修会の実施	B	「特別支援教育の専門性が向上している」と回答した教師は68%で成果指標と同程度であった。	特別支援教育コーディネーター
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目						主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	最終評価 実施結果	
○生徒会活動の活性化	○生徒の主体的な活動の活性化	○規則正しい生活習慣の醸成を行い、あいさつの意識づけや授業遅刻者を0(ゼロ)にする。	・生徒会を中心にあいさつ運動を行う。 ・学校全体で場に応じた行動(服装・言葉遣い等)に努めさせる。	A	「生徒はよくあいさつをする」と回答した教職員は89.2%だった。 ・集会等では場に応じた行動ができている。	

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒も職員も安心安全に生活できる学校づくりを目指して、学力向上の取組や生徒指導にあたることができた。「学校が楽しい」と肯定的に答えた生徒は8割以上であり、支持的風土のある落ち着いた学校運営を行うことができた。</li> <li>「授業の内容を理解している」と答えた生徒は6割台である。校内研究や職員個人のマイプランに基づき、授業改善を進めているが、十分な成果が現れていない。数年、低学力の現状が続いている中、基礎基本の徹底を図っていく必要がある。</li> <li>いじめ防止の取組やキャリア教育等について職員は日々研鑽を重ねているが、講師招聘などを行い、最新の指導方法や知識を習得していく必要がある。</li> <li>はなまる連絡帳等のICT利活用により、業務の効率化や情報の共有化が進展した。今後も学校組織のスリム化を進めていきたい。</li> </ul>
--------------------	--